

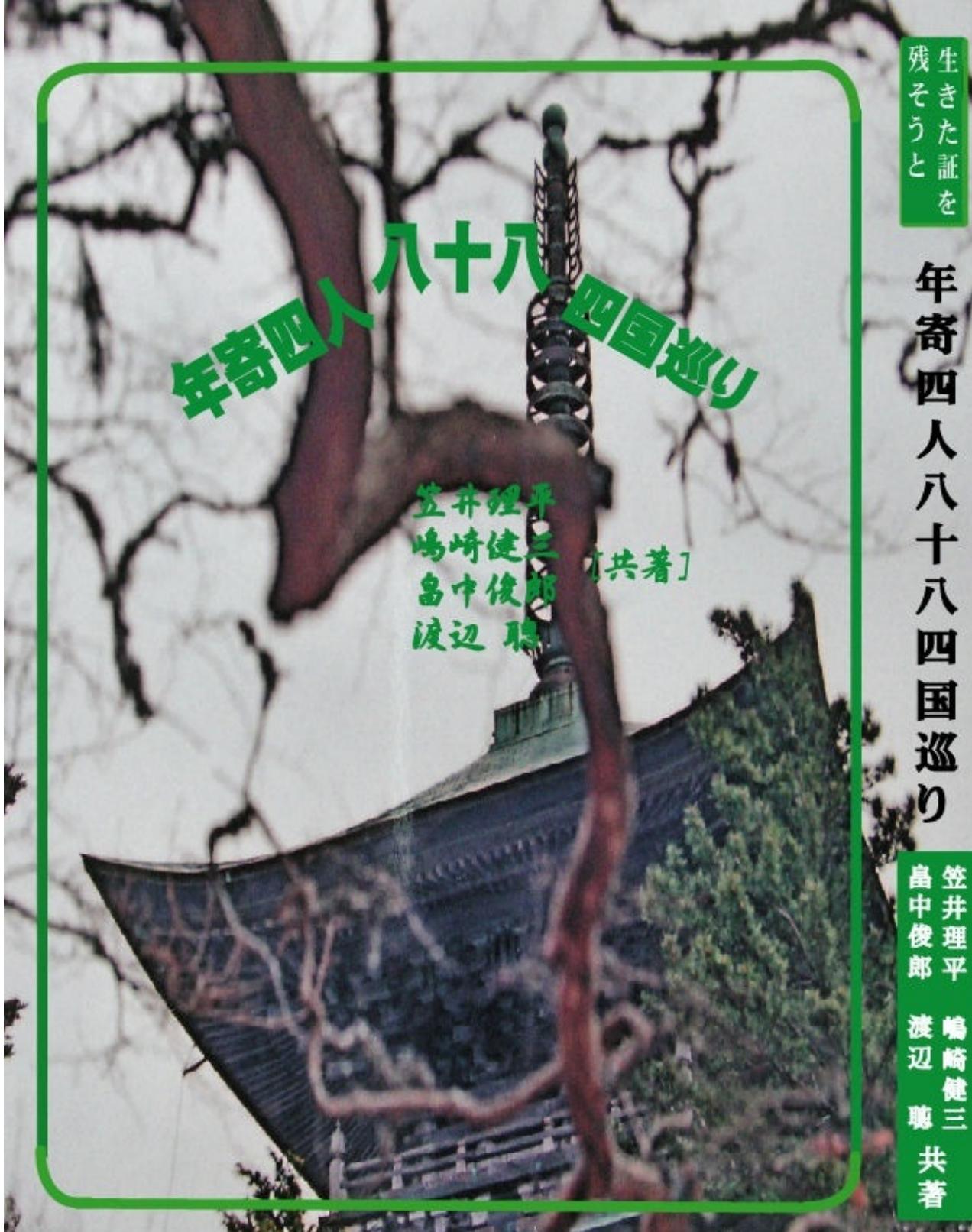
生きた証を
残そうと

年寄四人八十八四国巡り

笠井理平 嶋崎健三
畠中俊郎 渡辺聰 共著

年寄四人 八十八
四国巡り

笠井理平
嶋崎健三
畠中俊郎
渡辺聰
[共著]



巡礼五日目の記録 H

本日は、昨日までの前倒しにより、時間に余裕を見て行動が出来そうである。当日の最終巡礼寺は当初の計画通りとすることとし巡礼を開始、先ずは土佐市にある三十五番山青龍寺を巡礼、三十六番独鈷山清滝寺、三十七番藤井山岩本寺を経て、国道56号をひたすら走る、四国最南端の足摺岬を巡る三十八番蹉跎山金剛福寺までのロングコースであった。

S 4月 21 日
朝、はりまや橋見学、大通りの両側に赤い欄干だったと思ったが道路からたところに鎮座してた。市電通りで、高知城公行、高知城を登城。

S 4月 21 日

朝、はりまや橋見学、昔は大通りの両側に赤い欄干があったと思ったが道路から外れたところに鎮座してた。

市電通りで、高知城公園に行き、高知城を登城。

今日は、黒潮鉄道に沿って
四万十市へ。途中
アンパンマン列車と、競争。

金剛福寺巡拝後、笠井氏の記憶を辿り足摺灯台付近を散策、当日の宿へ土佐清水市のレストハウスに向かう。

係者に尋ねてみたが首をかしげていた） 岩本寺から金剛福寺までは、約百キロメートルあり札所間では最長の距離で、歩き遍路では三十時間近くかかることになる。

後日、今治のホテルで出会ったお遍路さんから一番長いところで三日間かかるとの話を聞いたが、ここのある所であろう。それにしても、車中から荷物を背負った歩き遍路を多く見かけたが・・・・・それぞれの思いを持つての遍路ではない。が到底真似が出来るもの

W

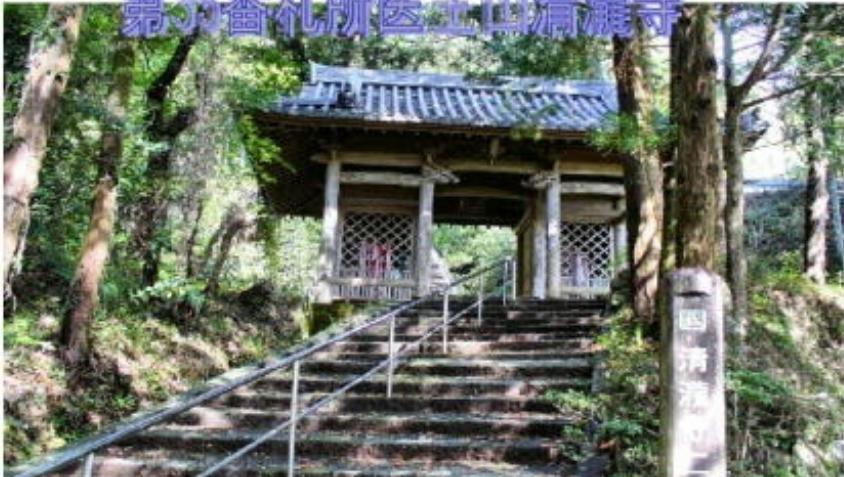
今日は足摺の近く迄、5ヶ所を巡る。高知側の清瀧寺、青龍寺。この寺の階段で朝青龍が鍛えたとか？？。

高知から足摺までは遠い。寺も 37 番、岩本寺しか無い。歩きの人は難所だという。が、寺はいずれも海岸沿いの山の上にある。

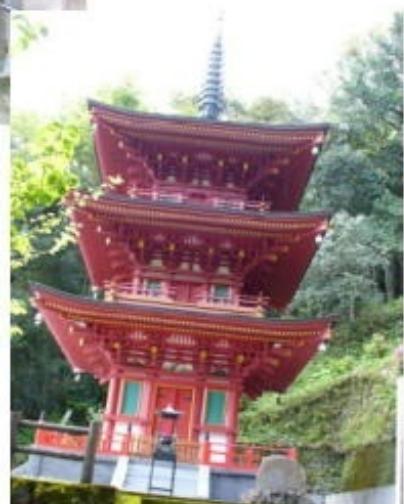
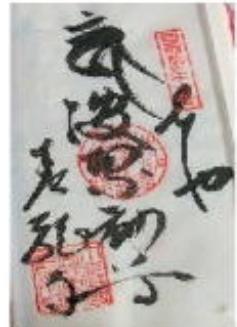
霧囲気は山の中で良いのだがこれといって印象が無い。同じ様な寺をすでに見てきたせいか。高知の都会の霧囲気を味わってしまったせいであろうか。

眼界も無し

第35番札所医王山清瀧寺



第36番札所独鉢山青龍寺



第37番札所藤井山岩本寺



車のナビは信用できるか H

三十六番青龍寺から三十七番藤井山岩本寺へ向かう途中、高速道路と平行して走行中、ナビの読み違いにより高速道路に誤って侵入、須崎東から土佐間を往復する形になり二十分の時間ロスをした。

昨日も、三十一番竹林寺から三十二番禪師峰寺へ向かう際に、並行して施工された新道？を走行し、山の上にある禪師峰寺の下をくぐるトンネルを通過、かなり先から旧道を引き返すことになった。

車載ナビに関しては、これまで同乗者三人の人間ナビから文句を言われながら走行していくが、このときばかりは完全に搭載ナビを誰一人疑う者がいなかつた。

この二件は、何れも新道（高速道路を含む）と旧道が並行している時の失敗であるが、初めて訪れる目的地周辺では、道路標識に従うことが肝心であることがわかつた。なたな。お後日、九日目に眞の人間ナビに出会うことと

テレパシーH

オーラ透視、過去世透視、遠隔透視、未来予知、念力：これらいわゆるテレパシー能力は特別な人だけでなく、普通の人が持ち合わせる能力といわれている。今回、三十八番金剛福寺は、笠井氏ゆかりの寺とのこと・そこでは不思議な縁を感じる出来事に遭遇した。この件については同氏の記述に譲ることとする。

また、同氏は、九日目にも後述する白川ご夫妻から接待を受けた讃岐うどんの店について同様の能力を發揮するこ

W

足摺の公園で嶋崎さん、ニッキを見つけて。良く見つけてくれた。ニッキを探す魂胆であったからうれしい。ニッキ葉と少しの根を採取。香らず小さく固い。葉は傷を付けても黒くなりにくい。

38 番 足摺岬の金剛福寺。こここの仁王様も防御なしで迎えてくれた。

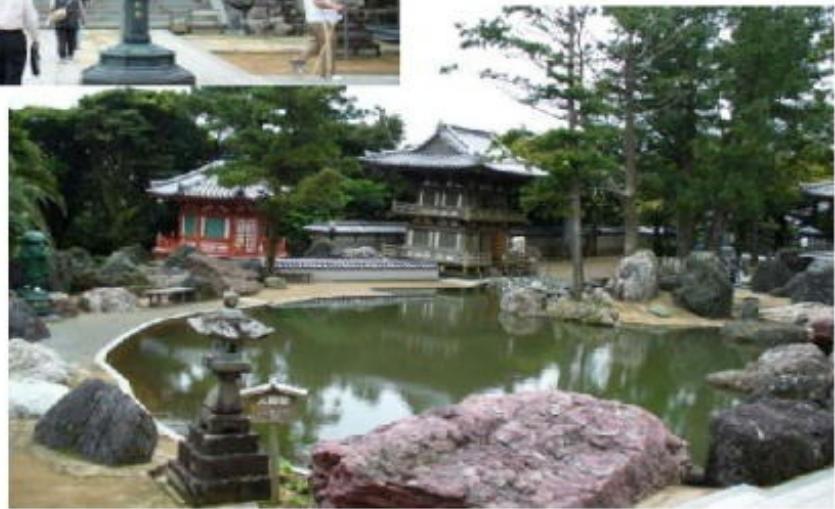
今夜の宿は土佐清水竜串。海底館を閉館間際に見学。ニッキの事は宿人知らず、おかしい。

NHK で便秘番組をやっていた。隣では海底館で撮った魚が NHK アナウンサーの誰かさんに似ていると、べらべらと話のつきない人たち。

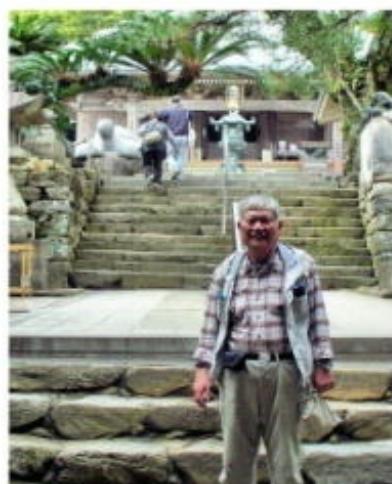
かん默は浮きだつ感あり、便秘番組を夢中で見る。この HOTEL が和式である。早速確かめた。快調！

乃至、意識界も無し

第38番札所嵯峨蛇山金剛福寺



第38番札所蹉跎山金剛福寺



K 38 番 金剛福寺のおもいで

52年前足摺岬まで夏休みを利用した、
トレンイン+自転車旅行を行う。

瀧川から先は、ほとんど未舗装で、道幅が狭く坂道が多く、自動車が通った後の土ぼこりにはマイッタ。が、何とか2日目の夕方には、足摺岬にたどりついた。

宿泊は、金剛福寺の住職さんにお願いし本堂に宿泊させていただく。

食事後住職のお説教、朝のお勤めが少々きつかったが、お接待でやって頂き、文句は言えない。

今回たずねた時、その時の住職のお葬式の日に遭遇。

なんかの巡り会わせか？

線香を手向けた。当時は、質素なお寺だったのだが、豪華の寺に生まれ変わり昔の面影は、ナシ。

第39番札所赤龜山延光寺



巡回六日目の記録 H
昨日の竜串海底館で出合つた気象予報士の予想通り、朝から荒れ模様の天氣となり、レストハウス千竜のおじいさんに見送られ雨中の出発となる。このおじいさんに「この菓子買って・・・」せがまれ、流行の竜馬にあやかって創られた土産用の菓子を置う。漁師風情で人のよさそうな素朴な感じのいまどき珍しいおじいさんである。

私は気象予報士 H
本日の宿は、土佐清水市竜串の「レストハウス千
竜」、シーブンオフで寂れた感じ。
夕食前に海底館を見学、嶋崎氏撮影の写真の一枚
に我々に問い合わせている魚の写真が一枚あった。
嶋崎氏曰く「N H K 気象予報士の女性に似ている
その女性は加藤予報士で、それ以降毎日のようにテ
レビで見かけるが、なるほど、彼の洞察力に感心す
る。

「春の磯 明日の天気は 雨模様」

本日の最初の巡礼先三十九番赤龜山延光寺へは、国道321号を一旦中村市へ戻る方法と、同じく31号を宿毛方面へ進む方法とが考えられたが、こ²こは車載ナビに従うこととした。ナビの結果は、両者のどちらでもなくその中間にある山の中を走る県道28号に誘導、仕方なく指示に従い走行し、宿毛に至る。宿毛から国道56号経由で延光寺へ到着。本日は巡礼開始とする。この延光寺で土佐の国に別れを告げ、次の四十番平城山観自在寺から伊予の国である。引き続き、四十一番稻荷山龍光寺、四十二番一か山佛木寺そして四十三番源光山明石寺と当初の計画をこなす。正直なところ、山間部の降雨により、計画通りに正直なるかどうか心配していたが通行規制等の影響も大きく、明日の行程を少しでも楽にするため、松山自動車道、国道379、380号を経由して四十四番自生山大宝寺を目指す。³大宝寺を巡拝後、四十五番海岸山岩屋寺までを巡り、松山市街地を通り、道後温泉にある本日の宿「K R道後ゆづき」に入る。

た向たかり 岩屋寺を巡拝し、駐車場に戻る途中、立寄るつも
 た模様。夕かがら煙が出でいた茶店の近くで嶋崎氏が電柱のトランス付近
 た模様。夕かがら煙が出でいた茶店の近くで嶋崎氏が電柱のトランス付近
 後温泉駅後、嶋崎さんは夜の松山城へ、残る三人は道
 後温泉駅後、嶋崎さんは夜の松山城へ、残る三人は道

本降りの雨中巡礼 H
 ほぼ一日中、四国入りして初めての本格的な雨中
 にでも片手に傘である。蠟燭に火をともし、線香をあげる
 また、宿毛湾、内海そして宇和海と風光明媚な海
 方が無い。行を期待していきたが本格的な雨降りでは仕

第40番札所平城山觀自在寺





S 4月 22日

あさ、近くの港を見学と思って出かけたが、雨にやられた。そういえば、宿の喫茶店で獣師さん？が、コーヒーを飲んでいた。

この町の住民は朝が早いのか、遅いのか、スナックが営業していた。

宿の主人が、息子も埼玉にいたといい、大東文化大で、野球をしていたようだ。

W 六日目。8千歩。 雨、6ヶ所。

41番であったか、寺の入り口の店にニッキ水が有る。購入した。店のおばさんはニッキ水は愛媛から仕入れる。石鎚山に自生するという。葉を焼けば良い香りがするという。確かに煮出しても良い香りが立ちこめるから頷けた。

39,40,41,42,43 番。写真が抜けている。この辺は多くの寺が群がる。故に順序おかまいなく巡る。

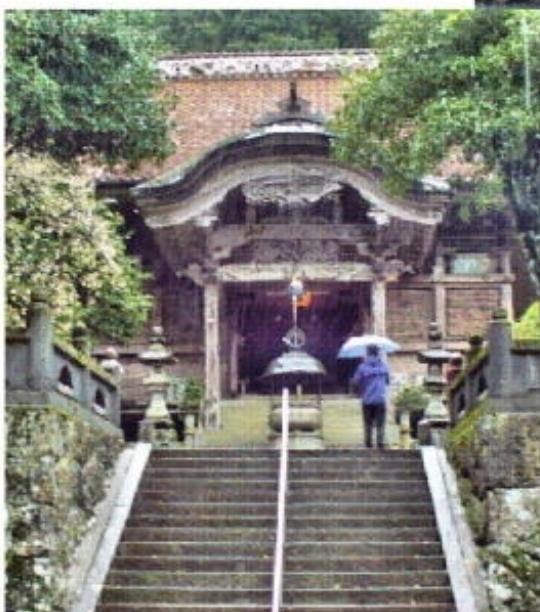
故に写真もひっくり返っており、どの寺であるか後で思い出せない。皆同じ様な印象で感動がなかったか。かろうじて43番明石寺の石垣を撮る。

無明も無し

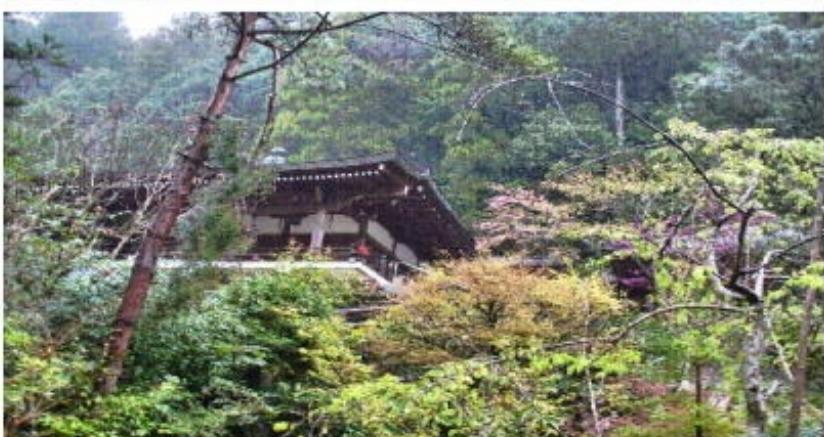
第42番札所一環山仏木山



第43番札所源光山明石寺



第44番札所菅生山大寶寺



第45番札所海岸山岩屋寺



S

KKR道後ゆづき、地下に大きな温泉。少し遠いが、松山城へ、登りをロープウェイと思ったが、もう、閉店。登り口がわからず、ほぼ、一回り登ったら、天守閣は真っ暗、観光都市松山を返上か。

W 45番、岩屋寺に入る。

たくさんの、のぼり旗がはためく。細い登り参道に「南無大聖不動明王」の無数の登り旗。こういうアクセントが無いと写真に撮る気が起きない。

太山寺への参道の途中であったと思うが茶店を見つけた。帰りに寄ろうと皆が思う。雰囲気の良いところである。品の良い茶店の婦人が茶を入れてくれる。

この人によれば子供の頃の記憶に、紙にニッキ水を吸わせた物が売られていて、それをチュチュと吸った覚えがあるという。

山道のお茶も、アイスクリームも落ち着いた。やはり山中の寺が良い、ゆっくりできる。どうしてこういう所に穏やかな女性がいるのか。裕福なのだろうか。

また無明の尽くる事も無し

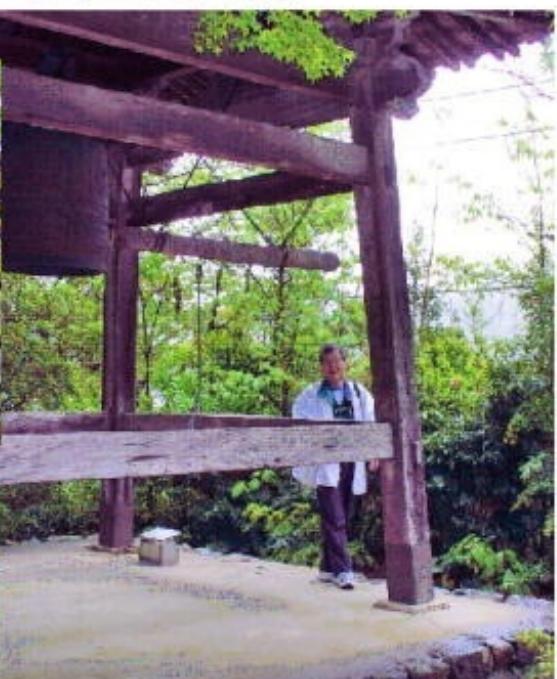
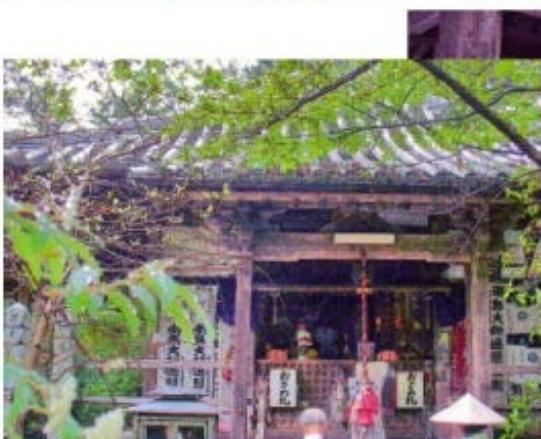
W

この夕は道後温泉に向かう。道後温泉の夜景をケイタイで撮り、坊ちゃん電車の脇を抜けて商店街に入る。そこでニッキ餅、シナモン煎餅などを売っていた。だがシナモンは輸入品のようだ。茶器を売る店で休憩。コーヒーを頼む。茶器にコーヒーが泡立って入れてある。これもなかなか美味しい。しゃれている。

KKR 道後ゆづき、なぜかこのホテルの名詞を持ち帰っている。裏に地図が載っているせいか。夕刻、雨模様であったが松山城の周囲を歩いた。だれも居ない。暗い夜道である。嶋崎さんは反対から登ったと見えて、途中ですれ違う。町を歩く。どの都会も似たような物だ。それこそ脇にそれて飲み屋にでも入らない限り町の雰囲気はわからない。

乃至、老死も無し

第46番札所医王山淨瑠璃寺



第47番札所熊野山八坂寺



W

なんで？、どこもかしこも杉の木なのか、四国は楠木、樟脳の木？ではないのか。岩崎弥太郎も樟脳を売り込んでいたではないか。TV 上の演出か？

49 番、松山市の浄土寺であったか、庭掃除のおじさん。いいカメラねと話しかけてきた。自分は名物男と自称する。赤札、金銀札をたくさん持っていてみな人と交換をしたのだとう。こちらは真っ白だが、礼儀上ありがたく交換をさせて頂いて、高野山に納札すると約束した。だれかさんは処分をどうしようかと迷っている。

ここにも秩父の道案内小坊主が本堂前に立つ。鐘楼の天井に絵巻。何の意味が書いてあるのか、解き明かす余裕時間が無い。

亦、老死の尽くる事も無し

第48番札所清滝山西林寺

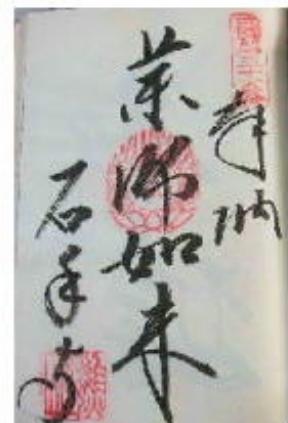
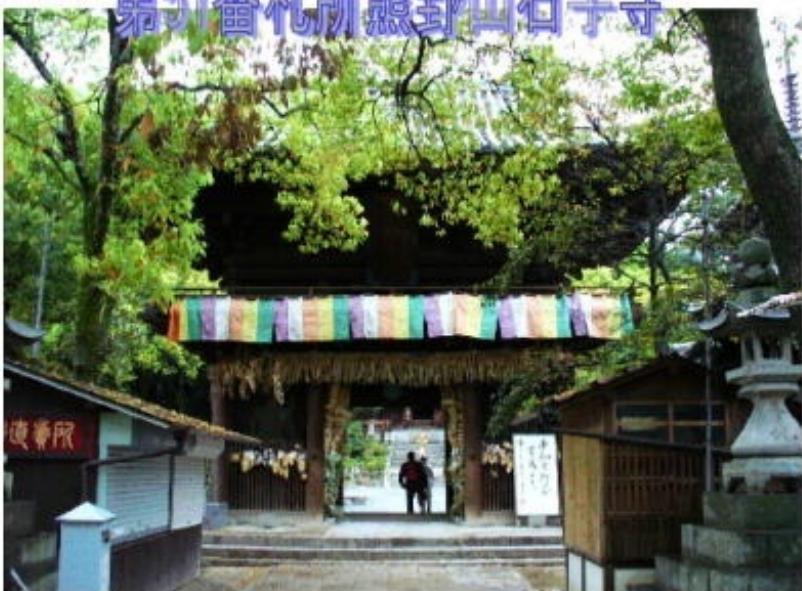


第49番札所西林山淨土寺





第51番札所熊野山石手寺



巡礼七日目の記録H

今日は、宿から徒歩十五分のところにあ
る五十一番熊野山石手寺を朝の散歩を兼ねて巡
拜することにした。今回の八十八ヶ所巡礼中、巡
拜する唯一の歩き遍路である。石手寺巡拜後、宿に戻る際に、昨日、走行中
姿を見ることが出来た。出来なかつた松山城を遠くに望
むことが出来た。朝食後、本日の車遍路を開始、本日は、五十
三番須賀山円明寺まで全て松山市内にある寺十
四番うくであり、山道走行と順調に四十番太
土寺、そして五十六番医王山、清滝山、淨瑠璃寺、
五十七番熊野山、山林寺、五十八番東山、繁多寺、
五十九番瀧西林寺、六十番圓明寺を巡礼する。

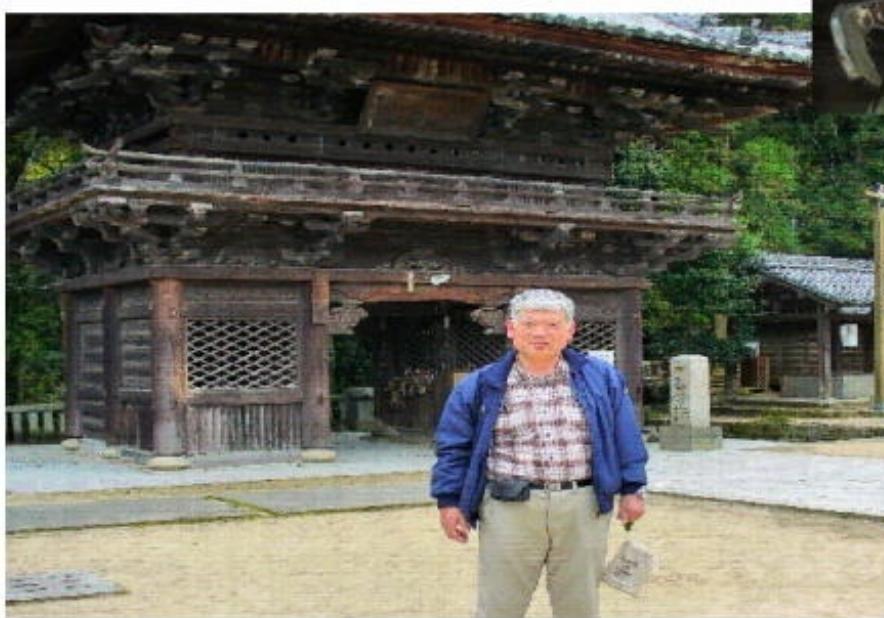
シャッター街 H
 但し今治市に到着、夕食は、今治名物の焼き鳥、
 メンを食す。ユーム不足にて中華そばやでラーメンを食す。
 ド商店街はシャッター街になつていていた。コケイヒー店も十七時閉店とのこと。
 夕食後巡礼開始後初めて宿のコインランドリーを使用する。

当初の計画では当日の巡礼はここ迄で、今治市内に向かいそのままホテルに入る予定であった。が、昨日松山市遠方の四十四番大宝寺、四十番岩屋寺を前倒しした関係で時間の余裕が出来たため、今治市の宿周辺の寺を回ることとした。結果としては、五十四番近見山延命寺、五十五番別宮山南光坊、五十六番金輪山泰山寺、五十七番府頭山永福寺そして五十八番作札山仙遊寺と五つの寺の巡礼を済ますことが出来た。今日の宿は、「ホテルポートサイト今治」、このとおり港がすぐそこにある宿である。

S 4月23日
 ホテルポートサイト今治泊。

今治の町を散策、多くの店がシャッターが降りていた。長期閉店なのか?
 時間になったので閉店なのか?

第52番札所灑雲山太山寺



第53番札所須賀山円明寺



キリストン灯籠
隠れキリストンの信仰？

W 七日目。1万歩。8ヶ所。

46 番 浄瑠璃寺、八坂寺、西林寺、淨土寺、繁多寺、石手寺、太山寺、53 番円明寺と巡る。

52 番、太山寺。写真は家紋でわかる。

53 番 円明寺。ここにもニッキの木を見つけた。葉が大きく柔らかい。傷を付けると黒くなる。さすが南国。香りも良い。

この回廊の天井絵は鮮やかであった。古い寺には似合はず鮮やかな色彩である。花模様が仏を囲んでいる。寺の仏壇のイメージであろうか。

23 日今治に泊まる。ホテルポートサイド今治である。これでイマバリと読ませる。

夕食を探すが、さびれた町のシャツターチで商店活気なし、食べるところが無い。いかなる事で食っているのか。郵便預金もここでおろす。明日もここだ。従って洗濯をした。

苦集滅道も無し

第54番札所近見山延命寺



第55番札所別宮山南光坊



隣接する別宮大山祇神社
南光坊は大山祇神社の別宮として建立

巡礼八日目の記録H

ド先に述べた、笠井氏の友人である佐伯住職からのアドバイスによるものである。本日は、当初から予備日として設定されていた。予備日の計画として、午前中は今治市内の寺を巡礼し、午後を丸々フリートの状態にしていた。それでも、この日の巡礼予定の五十四番延命寺から五十八番仙遊寺まで全寺の巡礼を昨日済ませてしまつて、いたので、一日丸々観光に振り当てることも可能であった。しかししながら、まじめな仲間たちである、「この前に前日出来ることにし、午後を「しまなみ海道」の観光で回つてやるることにした。」と意見が強く、どうぞ回つてやられた。今日は小生だけだつたようだ。

ただ、今回の四国八十八ヶ所巡礼を観光気分

ここ「ホテルポートサイト今治」は、パンとコーヒーの朝食がサービスとなつており、なんか得をしたよう気分になりありがたい。朝食後、先ずは六十番石鉄山横峰寺に向かう。横峯寺は、靈峰石鎚山系に立つ山の上の寺である。駐車場までは通行料千八百円（駐車料金込み）の険しい山道を登り、その先徒歩十五分で境内に至る。巡拝を済ませたころには寺周辺が霧に包まれ、神秘的な雰囲気の中での巡礼であった。

山を下り、次に向かったのは石鎚山修験の総本山、六十四番石鎚山前神寺である。巡拝後、直ぐ傍にある石鎚山神社を参拝する。先に巡礼した六十番横峰寺と六十四番前神寺は石鎚神社の別当寺であったとのこと。

つづいて、六十三番密教山吉祥寺、六十二番天養山宝寿寺、六十一番、梅檀山香園寺と逆打ちの形で巡礼し、今治市内に戻り、本日最後の五十九番金光山国分寺を巡拝、本日の巡礼を終了した。

W 八日目1万2千歩。 4/24、6ヶ所。

朝、散歩に港を巡り、今治の城を巡る。
土曜である。

朝靄の中、60番、横峰寺に登る。こういう雰囲気は好きである。良い写真が撮れた。高い杉の木の間、登り参道をひとりとぼとぼと歩いている。納経所と本堂の位置関係がよく写真に収めやすい。秩父の小僧さんが納経所を案内する。駐車料金は善意でここに納める。

がめついところは子供に集金させている駐車場もある。子供の遊びかも。

智も無く、亦得も無し



第57番札所府頭山榮福寺



渡辺氏と肉桂 H

ここで渡辺氏について述べておく。彼は巡礼については秩父の経験があり、大先輩である。彼は「肉桂の応用」について研究中であるが、四国に足を踏み入れてから直ちに肉桂の木を探し始めることとなる。

行く先々で熱心に尋ね歩く彼の姿を見てきたが、ここまでで分かってきたことは、四国では肉桂の木が群生しているのは石鎚山以外にはなさそうである。彼としてはここに留まりたいのであろうが、この先巡礼が残っている。彼には気の毒であるが、おいていくわけにも行かない。

第六十番札所石鉄山横峰寺は霧の中での巡拝、途中の道路は有料とはいえ運転に神経を使う狭い道であつた。

横峰寺は山岳信仰の靈地として知られる四国最高峰の石鎚山系にある。

つづいて、石鎚山修験の總本山である第六十四番札所石鎚山前神寺を参拝した後、直ぐ傍にある石鎚山神社を巡拝する。

W

石鎚山、石鉄山、どちらが正しいのか。
地図には石鉄山とある。
60番 石鉄山 横峯寺とある。
住所は石鎚である。
駅名も「いしづちやま」とある。

石鎚神社に詣でる。ここでも交通安全の札を購入。神も仏も両方の安全札、御利益があるだろうか。調子よすぎるか。

無所得なるが故に以って

第58番札所作礼山仙遊寺



第59番札所金光山国分寺



第60番札所石鉄山横峰寺





S 4月 24日 ホテルポートサイド今治。

同じところに2泊したので、記憶が曖昧
になってきた。

三大水城と言われている？今治城を散策。

64番前神寺への途中、石鎚神社を参拝。

神棚への神様を購入。

4月 25日

今日は、しまなみ海道をとおり、大山祇神社を見学。大きい鳥居、どのくらい古くからあるのか？太い楠のき。武具の国宝、重要文化財の8割があるといわれる宝物殿を堪能しました。

W 61番 香園寺のきんきらきんには呆れた。近代ビルの中にきんきらきんの巨大な仏壇が収まっている。仏教とはこんなイメージか。創価学会や天理教の寺も、見たことは無いがこのようになっているなっているのであろうか。歴史上の対比物である。

菩提薩埵の

W

空海の心？

1. 強欲の高野山
2. いやいや記帳の若い女坊主？
3. 集金人として子供を使う駐車場

歴史を感じる

1. 般若心経と三蔵法師
2. 深淵の杉、寺の古木
3. 寺彫刻の数々
4. きんきら金の寺（対比）

秩父との文化の違い。

秩父は市民の寺、住民が入り込んでいる。
檀家の人たちの努力が見える。句碑も多く
歌も多い。子供達が挨拶をしてくれる。

比較して四国は？？

記帳をしてくれる人の人間模様、
美人もいれば話し好きもいる。
比較して四国は儲け主義？？
数をこなそうとしている。つまらなそう
に書いている若い女社務員。

秩父は文化程度の高い地方と感じる。

比較して四国は？？。

史跡はあっても今の詩碑は無い？？

般若波羅蜜多に依るが故に、

第62番札所天養山宝壽寺



第63番札所密教山吉祥寺



第64番札所石鉄山前神寺



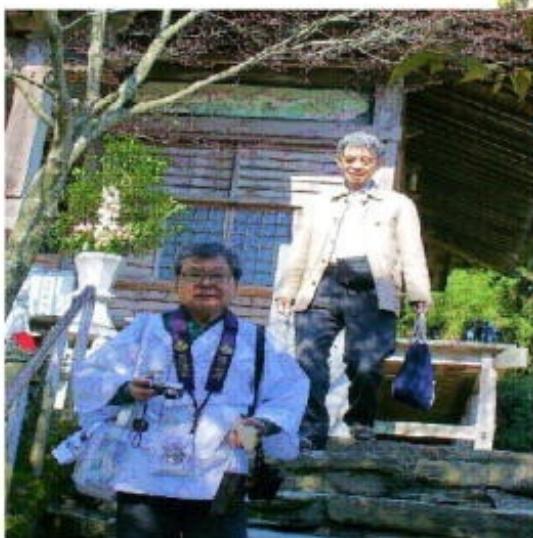


隣接する

石鈇神社に立ち寄り



第65番札所由靈山三角寺



大三島観光 H

さて、予定どおり午前中の巡礼を済ませ、待望の「しまなみ海道」を走り大三島に向かう。大三島の観光目的は、「大山祇神社」の参拝である。

今治北ICから西瀬戸自動車道に入り、来島海峡大橋にて来島海峡を一跨ぎ大島へ、さらに、大島大橋を渡れば伯方島で有名な伯方島、その先大三島橋を渡り大三島ICまで、「しまなみ海道」を爽快に走行し、昼の食事時、大三島に到着した。

インター・チェックインジ近傍にある「道の駅」の食事処は、土曜日と昼食時間が重なり観光客で満員の状態である。「大山祇神社」方向に車を走らせ手ごろな店を探すが見当たらず、結局は、駐車場周辺の観光客目当ての土産物屋が立ち並ぶところでの食事となる。それでも、折角の島での食事、小さな庶民的な定食堂を探し出し、煮魚定食等々を各人好みの昼食をとる。

「大山祇神社」は、数多くの国宝、国の重要文化財を有し、境内中央には樹齢二千六百年の神木を含め「大山祇神社のクスノキ群」として天然記念物として指定されている。また、昭和天皇の研究を展示した海事博物館が併設されていた。

大三島観光から宿に戻ったのは午後四時半ごろである。本日の宿は、昨日に引き続き「ホテルポートサイト今治」、夕食前に今治城内を散策しながら食事場所を探す。

昨夜、ホテルで情報を仕入れていた魚料理を主体とした「居酒屋」ですませることになったが、それでは腹が膨らまず、「うどん店」で補充する。

ホテルに戻る途中、笠井氏と二人でカラオケ喫茶に入り、軽くいっぱい（小生はコ一ヒー）店にいた地元の客と世間話して今治の夜を過ごす。

W

64 番、前神寺終了。この後、半日観光。しまなみ海道を行く。ついた大三島、こここの食堂でおかしな花を見た。なんだったっけ。適当にさして作った物らしい。

おばさんにニッキを聞いた。ここには無いという。石鎚山に行けばと言っている。

皆、口を揃えて石鎚山だ。石鉄山か。

何を楽しみで巡礼するか。

一通り、線香もあげたし、お賽銭もあげたし、納札も写経も置いてきた。御影ももらって、朱印ももらって、少なくとも階段は歩いて上って。

秩父と比較する。秩父はほぼ一人で歩いたが、仲間と歩く忙しさが？

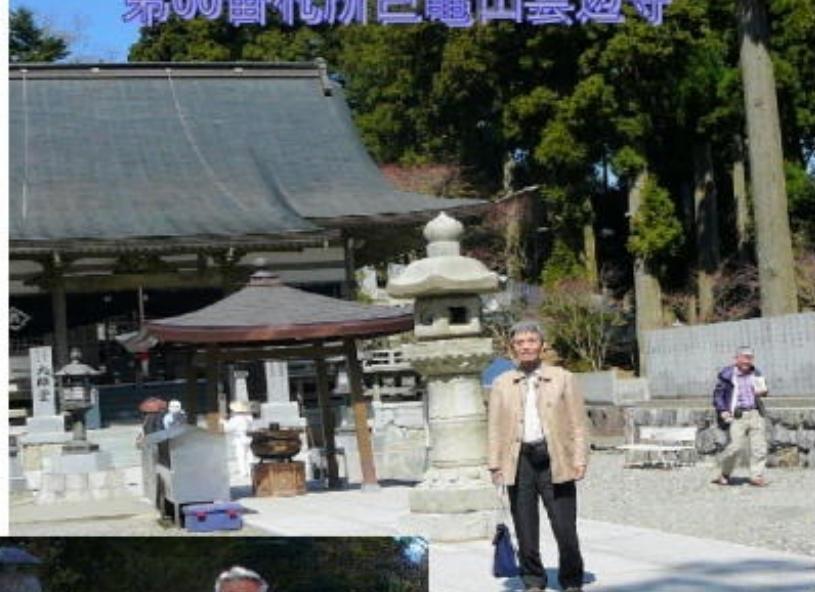
仏の顔が見えないところが？

寺の何をみたら良いのか、下調べを全くせずにについて行くだけ。

時がたってみれば各寺の思い出が、記憶が薄れる。

心に墨礙無し

第66番札所巨鼈山雲辺寺





巡礼九日目の記録H

昨日同様、「ホテルポートサイド今治」のパンとコーヒーの朝食を取り、七時にホテルを出発八時十五分過ぎに本日の最初の巡礼寺六十五番由靈山三角寺に到着した。三角寺までは今治湯の浦ICから今治小松自動車道に入り、伊予小松JCTから三島川之江ICまで松山自動車道と行程の大半を有料道路利用しての走行である。次の中六十六番巨鼈山雲辺寺からいよいよ最後の香川県かと思っていたが、実は雲辺寺は徳島県とのことである。三島川之江ICまで戻り、そこから大野原ICまで山麓駅から自動車道を走り、残りは山へ向かつての細道を・・する。山松山自動車道を走り、残りは山へ向かつての細道を・・する。山麓駅から雲辺寺口一ピュエイ（往復二千円）を利用する。八十八ヶ所中最も高所（標高九二一メートル）にあるこの寺の参道入り口あたりの道の中央に徳島県、香川県の県境が記されており、寺方向は確かに徳島県である。

次からは、正真正銘香川県である。香川一番は六十七番巡礼。大興寺（小松尾寺）、続いて六十八番七宝山神恵院を拝み合わせた。現代風の建物が本堂であり、建物中に入り巡拝する。次の六十番七宝山観音寺は神恵院と同じ境内にあり納経所は神恵院と兼務である。次ぎの七十番七宝山本山寺の巡拝を前に阿波の国で出会った白川ご夫妻（観音寺市在住）と待ち合わせをする。白川さんご夫妻と本山寺駐車場で待ち合わせ、白川さん縁者の「白川」にて昼食へ讃岐うどんの接待を受け

また、境内に向かう参道脇には五百羅漢像が表情豊かに立ち並び巡礼者を見つめていた。この五百羅漢像よく見ると中には誰かに似ている像もあるという。笠井さん、見つけましたか？

余談であるが、山頂へのロープウェイの中で一つのグループを見かけた。話を聞いてみると聞き覚えのある方言、そのうちの一人に「どちらから・・・」と声をかけたところ兵庫県の加美町とのこと、「えっ！」何と、家の内（同一町内）からのグループであった。

る。小生は知らなかつたが、阿波の国で出会つた折、笠井氏との間で「香川に入つたら是非声をかけてくれ、うどんをご馳走する」との約束があつたらしい。

本山寺から七十五番五岳山善通寺までは、白川ご夫妻の案内で同行巡礼となる。これから先は「人間ナビ」白川ご夫妻の車を追走する。

昼食後、直ちに午後の巡礼を開始、本山寺駐車場に戻り、当寺を巡礼、七十一番剣五山弥谷寺、七十三番我拝師山出釈迦寺、七十二番我拝師山曼荼羅寺、七十四番医王山甲山寺そして七十五番五岳山善通寺を巡礼する。これを参拝後、金比羅宮迄の道案内をしもらう。

W 九日目。1万5千歩。11ヶ所。

ため池の多い地方である。こんな池の沈殿泥がなぜに廃棄物なんだ？おかしな規制？

65番、三角寺。名前からして興味がわくが？

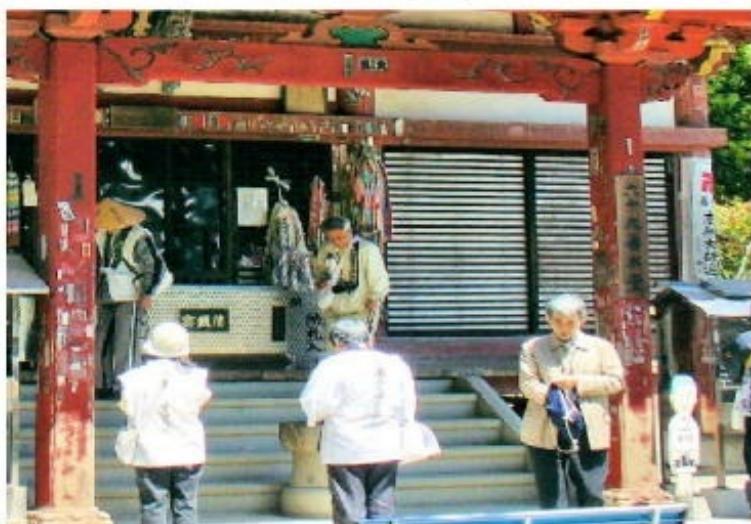
墨礙無きが故に

W

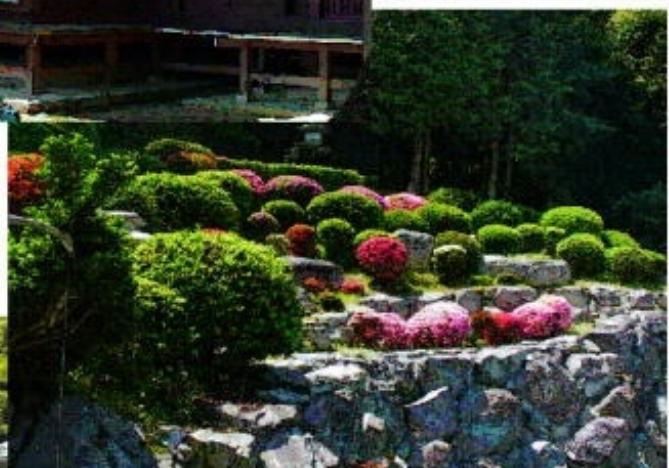
66 番、ロープウェイの上 雲辺寺。

羅漢様のクローズアップ写真を撮る。一体一体違う形で、違う形相で作られる。いかなる思いで作っていくのであろう。仏師が作ってある物を寄進する人が選んでいるのかもしれません。仏師は異なる形の物を勝手に作る。そういう形か？ 寄進者が要求して作るなんて事はないか？ 秩父に水子地蔵群がある。全く同じ形の物が無数にある。これは気持ち悪い。五百羅漢は異なる形相、異なる形でこちらの、その時の精神状態で気に入る羅漢が選べる。このほうが良い。おもしろい。

恐怖有る事無し



第69番札所七宝山觀音寺



一寺二札所の珍しい靈場
第68番札所神惠院と
同一境内にある。

K 目当ての当日

69番観音寺から70本山寺に行く途中に白川さんの言う、そのうどん店らしきお店を見つける。

多分この店に案内されるのでは？と車内で会話。

白川うどん店の味：

混雑して落ち着かなかったが、味はたいした物だ。

W

讃岐のうどんを食べ比べ。

白川夫妻に案内される。

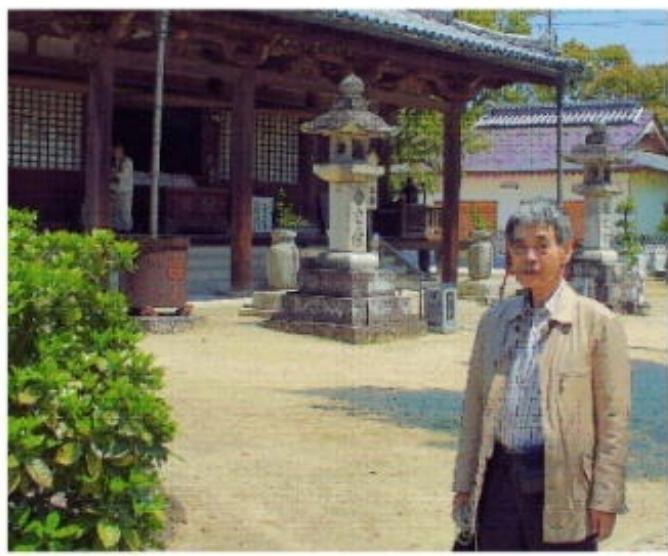
今まで、うどんのどこがうまいのか判らなかつたが、比較してようやく判つた気がする。

それに比べて、不味いサービスエリアのうどんも印象的。

一切の顛倒夢想を遠離して

第70番札所七宝山本山寺











で　　いた　ご　る　拝　所　曼　第
 ある　た　た　夫　順　我　荼　七　帰　H
 。　　この　め　妻　序　羅　十　宅
 。　　れ　だ　の　と　拝　二　後　、
 そ　　。　氣　判　入　師　寺　と　札　写
 真　　が　ビ　明　れ　山　出　第　札　真
 の　　付　に　し　替　釈　七　所　我　編
 人　　か　頼　た　わ　迦　十　我　集
 間　　な　つ　。　っ　寺　三　拝　時
 ナ　　い　て　白　て　の　番　師　時
 ピ　　で　い　川　い　参　札　山　に

W

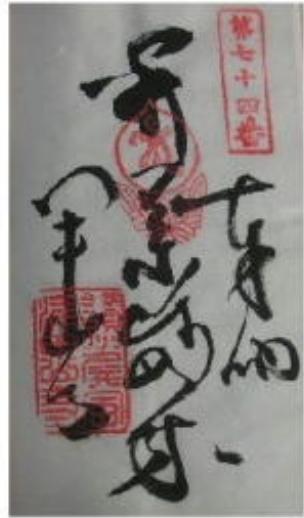
寺同士の比較は、離れているので、また観賞に時間差もありよくわからない。もつとじっくり見ればよいかも知れぬが一人旅ではない。次の寺に行くまで記憶が薄れる。

たぶん仁王様もいろいろな顔がある。赤鬼、青鬼、古ぼけた鬼、壊れた鬼とか。仏師たちは何を表現したかったのだろう。

一方で感じるのは、寺にはなぜにこんなにも彫刻、彫り物が多いのだろう？

この巡礼で我が人生に何が変わったって？なにも変わらない。やはり一人で歩かねばだめか。あるくなら八十八巡りでなくても良い？

究竟涅槃す。



しつぐ野とつにつ きめ崎 通五 H
 たり善きて手暗御たぐ氏こ寺番こ
 。こが光、き探闇影。りとので札の
 と右寺何たりを堂 を二寺あ所寺
 を回の故が状左地 体人でる五は
 思り戒か、態壁下 驗では。岳、
 いで壇、そで伝の し戒、 山七
 出あめ長の巡い真 て壇嶋 善十



W

この日最後に 75 番善通寺を訪問。この寺で巡礼着に朱印をもらう。

空海が親の為に建てたというのでもうすこし印象に残る寺なのかと思ったが、ばか広いだけの寺。親を思う身延山の親恩寺、善通寺も親のため建てたとか。大きい寺を建てる口実か、後から付けた口実か。龍の目もどこにでもある。大衆を引きつけるための流行か？これも金をかけた寺だ。自分の興味は薄れる。

観光書に書かれた善通寺の由来が気に入り、来て見たかったが、広すぎること、趣が無いこと、なんだかありがたみが判らぬ。

苔むした寺、霧の中の寺、山の上の寺、皆このようなイメージで思っていたが？？？

入り口にニッキの臭いがぷんぷんする出店があった。河原煎餅、飴、ゼリー、げんこつ飴、餅、ニッキ水などいろいろあった。店員がニッキの根も持っていた。囁かせてもらったがまさにニッキの根、石鎚山に山を持っているという。どこでも石鎚山だ。にっきの山だ。

三世の諸仏も

W ニッキの事

ニッキはにっけい、桂皮、シナモン、カシア等言うとの事（白水社 香辛料の世界史から）。香辛料の中で胡椒と共に最も古く古代インドの料理に香辛料として姿を現す、中国人は紀元前2700年頃「桂」の名で記されている。聖書や東方見聞録にもでてくる。

主として二種のニッケイがある、すなわちセイロンニッケイと中国ニッケイ（カシア）。

20m 近い高木になり、長さ 20cm の葉、濃緑色のローびきしたような葉。樹齢10~20 年で採取、また 10 年休せる。樹皮を細長い状態にこそぎ取り、束にして 2~4 時間発酵させる。その後注意深く樹皮の外層であるコルク質を削り取る。乾燥するに従って丸まり細管状の樹皮が出来る。

般若波羅密多に依るが故に

第75番札所五岳山善通寺



○御影堂地下

戒壇巡り（約100m左回り）を体験

確か、長野善光寺は右回り・・・。



真言宗寺院に法然ゆかりの塔が H
五重塔の近くのあまり人目につか
ない一角に、ひっそりと小さな石の
塔が立っていた。そのいちばん右側
にある石塔には、「法然上人逆修塔」
という文字が刻まれている。

「浄土宗の宗祖である法然のゆか
りの塔が、この四国の真言宗寺院
に・・・」
の中のこれは、五木寛之著「百寺巡礼」
の一節である。

金比羅宮 H

さて、善通寺で今日の巡礼を終了
した。この段階で、当初の計画を大幅
に前倒し（六十八番く七十五番は十
でき、しかも、日没まで時間があり、折角な
「讃岐のこんびらさん」の名で親しまれて
いる金刀



比羅宮を参拝することとした。

比羅宮を参拝することとした。
先の“人間ナビ”白川ご夫妻には、金比羅宮迄の道案内をしてもらい、明日の同行を約束し、参道近

金比羅宮の参道（石段）は、四十年前に学会で徳島大学へ来たとき上ったことがある。そのときの苦い体験から小生のみ石段の途中で上るのをあきらめ、ココヒーを飲みながら店のマスター（四国新聞社○B）と対談をしながら仲間の下山を待つこととした。約一時間後に、仲間が下山、観音寺市内に戻り、当日の宿「観音寺グランドホテル」へ入る。当ホテルは、決して悪い宿ではないが（値段相応）、小生の部屋は運悪く、過去のヘビースモーカーでさえ耐えられないほどにタバコ臭がひどいものであった。（幸い、別棟に空き部屋があり交換できたが。）

夕食は、美味しいもの求めて車で出かけるが、結果は「C。C。壹番」のカツカレーとなる。

W

脇道にそれで金比羅さんに行く。来たことの無いのは自分だけとの事、つきあってもらった。奥の院まではとても行けないが、難なく階段は上り通した。ここも階段だけで思い出が無い。

一応、土産に交通安全札を買った。この交通安全札も失敗、気がつかない俺がバカか。

磁石帶製ですなわちプラスチックの車体には付かない。故に誰ももらってくれない。喜んでくれない。仕方ないから自分の車のダッシュボードの上に置いてある。間抜けな話だ。

阿耨多羅三藐三菩提を得たもう

お接待について H
ガイドブックなどで
「四国では“お接待”
といふ慣わしがあり、地
元の人が、遍路に物（果物
やお菓子）やお金などを
上げたりする。」
といふことを読んだこと
がある。
今回、旅でも何回かそ
のような接待を受けたが、そ
白川ご夫妻から受けた数
々の心遣いは、小生が理
解していく。“お接待”に
当たるのであろうか。
ございましたの一言を！。

S 観音寺グランドホテル

ホテルに到着し、さあ食事、近くではサティーが閉店、食事の場所が見つからず、ナビで、ココイチへ。

味は、どこも変わらない。

4月26日

ホテルは国道の脇、だが、周辺は田んぼ、旧市街地を目指し観音寺駅へ。

駅の反対側か？

數石の間から草が良く生えていた。

駅、正面は、道路はとても綺麗に敷石が敷かれ、舗装もしてあるが、空き家、空き地が目立った。

地方の厳しさを感じる。







第78番札所仏光山郷照寺



つ同ま峰八巡合川山繞
た行で山十礼いご本き昨
。巡ご所二開、夫山、日
礼夫根番始当妻寺七に
と妻香札し日とで十引
なと寺青、の落白番き

十日目 H

巡礼十日目の記録H

寺た足よ　をら到　車わいンリテ
 での山る早い差着駐場せた「」朝食を観音寺グラ
 あは金先速たし、車に場白でレスの向
 る七倉導、だ入巡場向所川済スか
 。十寺を白くれ札にかでごまトか
 七へ受川。開はうあ夫セラい音寺グラ
 番、けご再始、。る妻前ンにあるジヨン
 桑次七夫々前ほ山と日「ジヨン
 多に十妻のにぼ本の約ジヨン
 山巡六のご奥同山待東ヨアド
 道拝番車接様時寺ちしナミホ
 隆し鶏に待かに駐合てサミホ

W 十日目。7千歩。

No76~86まで、皆近い。11ヶ所済み。

82番、根香寺。獣の寺。

仁王門に大草鞋。秩父もあった。秩父では、
 草鞋カツを地域の売り物にしていたが。
 ここで白川夫妻に別れる。

明くる日、最後に佐伯さんに別れの挨拶をしようとしたのだが、彼の心臓の調子が悪く街道の途中での、雨の中の立ち別れの挨拶となつた。

帰宅後。律儀にも彼からお礼の電話を戴いた。
 元気で長生きをしてくれることを祈る。

故に知る、般若波羅密多は

道隆寺は「眼治し薬師さま」として慕われている「薬師如来」を本尊とする寺である。で、因みに四国八十八箇所で最も多い本尊が「觀世音菩薩」で、次に多いのが「薬師如来」であるとのこと。その後、七十八番仏光山郷照寺、七十九番金華山天皇寺へ高照院、八十番白牛山国分寺、八十一番綾松山白峯寺を順番に巡拝し、白川ご夫妻との同行での最後の寺、八十二番青峰山根香寺に至る。

根香寺の参道は、仁王門をくぐると石段を下り、しばらくして上がっていくという珍しい参道である。境内や参道沿いにはカエデが多く見られ、秋の紅葉時期には山全体が真っ赤に染まるとのこと。

ここ根香寺の山門近くの茂みに立つ迫力ある牛鬼の像れをすることがなった。これを後に、二日間に渡り同行巡礼をした白川ご夫妻とお別れするが、この先、元の車ナビを頼りの行程となる。「釜揚げうどん」を食らう。今日で讃岐うどんの土地を離れることになる。夫婦と別れ、この店にかかることが無かつた。セルフサービスの土地位

八十番神豪山一宮寺に向かう途中、街中のうどん屋で「釜揚げうどん」を食べる。今日で讃岐うどんの土地を離れるが、お目にかかることがないにかかる。事前に描いた

次の八十四番南面山千光院屋島寺へは、国道11号を経由し屋島ドライブウェイを走行、源平の合戦場、壇ノ浦を望みながらの走りである。八十五番五剣山八栗寺へは八栗ケーブルを利用、ケーブル山頂駅を降りると境内の背後にある四つの峰が連なる五剣山が眼につく。（五剣山は当初五つの峰がつたらしい）、境内では朱色鮮やかな多宝塔が眼を引く。

本日の最後は八十六番補陀落山志度寺である。志度寺での納経を終えたのは午後四時過ぎ、今夜の宿スープテル高松禁煙館のある高松市内を目指す。

夜は、ホテル近傍の飲み屋街を散策しながら、食事場所を探し回ったが、適当なところが見当たらず、デパートのレストラン街にある中国料理店での食事となる。

スープテル高松禁煙館は、六十歳以上三千八百円（但し、通常は五千円でメンバーの一人はその金額を支払うこととなる）と安価で清潔感のある宿で、しかも、朝食（パン又はご飯）は無料で、しかも飲料の自動販売機では全て無料。料に切り替えられており、満足感の得られる宿であった。

第79番札所金華山天皇寺



S 久しぶりの都会？
近くの駅は複雑に路線が入っていた。
すなわち、踏み切りがべらぼうに多い。

スーパーホテル高松禁煙館泊
60歳をこえると？とても安いホテルです。
半額割引です。
残念ながら、証明できなかつたので
たか一い。＝＝当たり前、59歳だからね。
4980円なり。

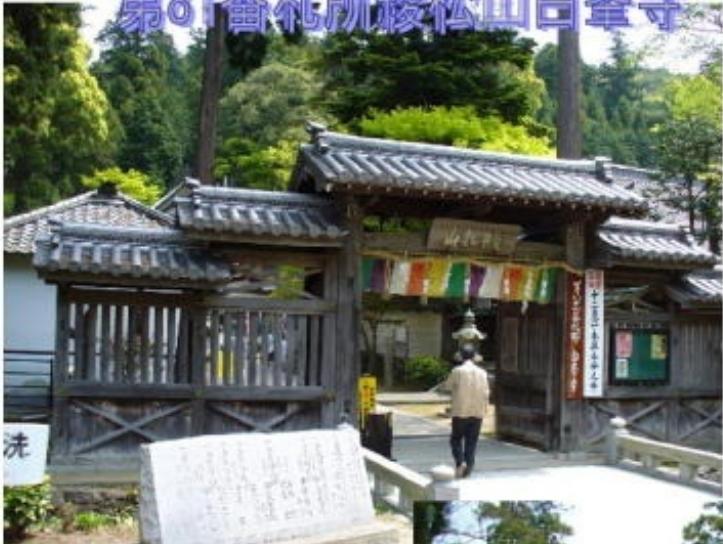
W やすらぎ心和む風景

1. 茶屋のコーヒー、女主人
2. 羅漢様の顔
3. 霧のかかる深い杉の木参道
4. 仲むつまじい夫婦 白川夫妻
5. 寺への登り参道
南無大聖不動明王

大神呪なり



第81番札所綾松山白峯寺



K

先の 10 月 12 日、高松空港で香川県
観光案内所の職員と会話した内容は、

“白川うどん店は、香川県では有名
店で、高松からでも食事に行くそ
うで、その職員も利用しているそ
です”

ここでご馳走になった後、白川ご夫妻
の案内で 82 番根香寺までおまいり。

松平家（水戸黄門の兄）の大名庭園
で、日本三大庭園の一つである。最大
規模の“栗林公園”は後にミッショラ
ンの観光版で三ツ星にえらばれている。

ここを案内出来なかったのが、残念！

第82番札所青峯山根香寺



第83番札所神峯山一宮寺



第84番札所南面山屋島寺



第85番札所五劍山八栗寺

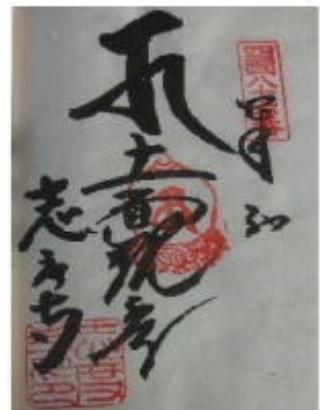


W 85番、八栗寺。

赤いケーブルカーで登る。
ここでもニッキを採取した。
夜、コッペ食べる。後悔す。

大明呪なり、無上呪なり

第86番札所 捕陀洛山志度寺



巡礼十一日目の記録H

四国から和歌山へ

さて、今日は四国最後の日、残す二つの寺の巡礼を済ませば四国八十八箇所の巡礼を完結することとなり、朝から皆の顔も爽やかである。それとは裏腹に天候の方は午後には荒れ模様との予報、朝食後直ちにホテルを跡にする。八十七番補陀落山長尾寺は静御前が出家して尼になつた寺として有名らしい、本堂横に静御前剃髪塚があつた。いよいよ、最後の八十八番医王山大窪寺、大窪寺は結願の寺、寶杖堂には巡礼を終えた遍路が納めた数多くの金剛杖が立てかけられていた。当方のグループでは笠井、渡辺両氏が金剛杖を携えてきたが、両氏とともに明日参拝する高野山での奉納とのことであった。お世話になつた佐伯住職との待ち合わせ

場所である徳島自動車道脇町ICへ向かう。

佐伯住職が徳島道脇町IC入口まで見送りにこられた。高野山同行との話も聞いていたが、体調不良とのこと真に残念である。雨中、同氏の見送りを受け、一路徳島道を徳島方面へと気象情報を気にしながら走行。当日の予定では、夕刻、徳島港から和歌山港まで南海フェリーを利用することになっていたが、徳島市内に入る手前で“強風のためフェリーが欠航”との情報でやむなく陸路への変更となつた。

高速道路が整備され、海路も陸路も所要時間には大差がないが、長距離走行で車に飽きており、船旅も楽薬を心配していた小生としては用意していた酔い止めの薬も使用することなく、内心ほつとした次第である。陸路への変更のため、徳島道を途中で降り、高松自動車道板野ICへ向かう。折角でもあり、板野IC傍の壱番靈山寺に立ち寄り八十八箇所巡礼の報告をすることにとした。靈山寺を跡に、板野ICより神戸淡路鳴門、山陽道、中國道、名神及び近畿道を経由、一路和歌山に向かう。

途中、淡路島SAで昼食（ラーメン他）、往路で食したが違う。誰かの話では往路は“明石焼き”今回は“たこ焼き”とのこと。

寺を番外で礼拝することができた。西国三十三所観音霊場には、大和の長谷寺、京都の清水寺、近江の三井寺と石山寺など高校の修学旅行で訪清寺が含まれている。当時は何ら興味があれど無いに等しいが、機会があればと予備の計画として候補に挙げていた寺である。この寺は、笠井氏が当初、和歌山でまわることが出来ればと思ふ。また、このメンバーでまわることが出来ればと思ふ。この寺が含まれていてもなき記憶もほとんど無い。されば、また、この寺は、笠井氏が當初、和歌山で時間的に挙げていた寺である。

粉河寺を礼拝後、当日の宿である和歌山市内にある「和歌山東急イン」と向かう。夕食はホテル近傍の「和歌山ホステル」で久しぶりの洋食でした。

W 十一日目。1万4千歩。
けち願済む。和歌山へ。

88 番は大窪寺。

庭を見せている寺の一つ。石庭、中国の石山とも違う、といって日本庭園の石庭とも違う。この石庭はなんの意味を持っているのだろう。

ぼこぼこ庭は 68 番神恵院。なだらかな傾斜地につつじなど定間隔に植える。

31 番竹林寺の庭園が一番良かった。純日本庭園だ。高野山も石庭を見せてている。

いかなる気持ちでこれらの庭を造っているのか。坊主の遊びか、参拝者を集めるための道具か、やはり遊びであろうな。毎日の憂さを晴らす為に庭を造る？。見る視点を変えねばなるまい。

今の人たちは作っているのではない。維持するため人に見せて金を集める。

無等等呪なり

納経（帳）の意味 H

陸路へ変更のため、一番寺に立ち戻り、八十八番まで巡拝の報告をし、納経帳を差し出す。納経所の職員（高齢の女性）は納経帳を見て

「どうされましたか？」と怪訝な顔をされた。
「八十八箇所すべての札所を巡拝してきたが、当

寺（一番）、八十八番以外の寺では宝印を頂いていま

せん」と説明すると、「それでは結構です」と当寺の

栄と一緒に三百円の納経費を返してくれた。

後で分かったことであるが、納経には二つの方法があり、一つは写経した般若心経を本堂、大師堂に納める方法、もう一つは読経して納める方法であるらしい。
したがって、納経帳の墨書き、朱印は、納経の「証拠」であり、寺側から見れば「領収書」みたいなもので、巡礼者から見れば「巡礼の記録」となるのであろう。

S 4月 27日

栗林公園を目指したが、到着できず。
四国最後のやど、朝から雨、無事八十八ヶ所、
弘法大師さんと巡拝終了。
佐伯和尚さんと別れを告げ、88ヶ所札所
巡りが、無事終わったことを報告へ1番寺へ。
これから、高野山へお参りして帰ると言ったら、
「高野山は霧の高野山が、一番」
と言われましたが日程が決まっているので、
時の運。「さあ一徳島から和歌山へ2時間
ほどのフェリーと」、思ったら最大トラブル。
フェリーが欠航。
淡路島経由で和歌山へ行く羽目に。

W 色すなわち空なり。とんでもない！

背中にはすべての朱印をもらう。そして
第1番、靈山寺に戻り結願の報告をした。
お茶を頂き、世間話をし、巡礼名簿を見せて
もらう。歩き遍路の人たちである。なん
と多い事か。それでも結願した人は少ない
ように思える。金銀納め札は何なのだ。や
はりごまかしがあるんか？疑うことをして
はならぬとあるが。

能く一切の苦を除して

第87番札所 捕陀落山長尾寺





S 和歌山東急イン

夕食後、ホテルが和歌山城に近いので、夜のお城見学。離れてみると、ライトアップされて、きれいに見えるが、ここも途中は真っ暗。

でも、雨が止み、お月さんが、
雲間から・・。いいなー。

4月28日 朝飯前。

予定では、到着することになっていた、フェリー桟橋を見ようと出かけたが、行けども行けども、到着せず。地図が遠方は縮小しているのかな？

フルーツラインを通って高野山へ。

巡礼十二日目の記録 H

今日は高野山、ホテルから高野山まで約二時間かかるとのことで、朝食後直ちに出かける。高野山大門へ到着したのが九時半ごろ、近傍の駐車場に車を止め、大門を見物しながら佐伯住職を手配してくれた当日の案内人を待つ。

最初は、大門近くの壇上伽藍、朱塗りの根本大塔は色鮮やかである。次に案内されたのは金剛峯寺、次ぎの奥の院に向かう前に参道入り口付近の観光者向け売店内食堂で昼食（うどん）をとる。

昼食後、奥の院、灯籠堂へ、一の橋から灯籠堂、御廊までの杉並木の中、諸大名やその他歴史上耳にした著名人の墓石が立ち並んでいる。そこまでは想像範囲であるが参道に入りしばらくは有名企業、団体等の供養塔等が眼につき、異様な感じを受けた。奥の院を跡に、靈宝館、徳川家靈台、そして女人堂、一寸駆け足での高野山巡りであった。

たで温で莊因旅一最愛
 最後に、佐伯住職の仲介となり案内人の紹介を
 約泉ある「みで國民宿舍紀伊見莊」に向けた山内の土産物屋で買い物をし、今回の旅の
 千円食事の費用であるが、松山の「KKR道後」は、橋本市にあり、今回の
 費用の差は、さくらビス等々すべてに對して劣るものであつて、「KKR道後」につぐ公共施設である。
 「KKR道後」が一〇八五〇円見
 「KKR道後」に比べ、
 「KKR道後」に比べ、

W 十二日目。6千歩。高野山。

昨日、大雨でフェリーが欠航、淡路島から大阪を回り、陸地を和歌山に来た。今日は朝早く高野山に向かう。途中の景色は、柿木、ミカンの木、他、梅もそう、皆背が低い。剪定すれば背が低くても果実が生るのだ。

そういえば四国の民家に高い木がない。故にニッキの木もない。高野山にもニッキは期待できない。茂原のように民家に1本づつ持つなんて事はない。

柿の木の皮もきれいに剥いてある。サルスベリのようだ。皮を剥く厚みが難しいとも聞いた。確かに栄養分の吸い上げが出来なければ枯れてしまう。根本を輪切りに傷を付けているようだ。背が低ければ作業はしやすいし、すべすべしていれば虫が登りにくい。自分も試してみよう。

真実にして虚しから不

W 山門を入り、南無大師遍照金剛。

すべての納経を終えた。巡礼着の背、中央に朱印をもらう。秩父から、四国から、すべてに予定した納経を終えた。

達成感？？感動は無い。お坊さん達の群、お百度を踏む信者の脇を通って見学をする。案内は佐伯さんが手配してくれた商売人。

ここでの説明も空海のやりてぶりが話に出た。ばかりかい山門の脇から入る細い道は神社へと続くらしい。空海が天皇のご機嫌を執り、広大な土地をもらうために、お為ごかしに作った神社らしい。

神社仏閣も同居させるのは昔からあるのだ。これも日本の文化、他の国のように激しい宗教間の争いはない。その面では仏教や神教に軍配をあげたい。

故に般若波羅蜜多呪を説く

W 高野山は強欲の寺とみた。

良い気分ではない。徳川や秀吉の墓ならまだわかる。天皇家の墓もっわかる。歴史上の人物であるが故によしとしよう。

しかしどこかの会社名の墓がわんさとある。有名人とか外国人とかの墓もある。これはなんだ。会社名を借りて事実上当時の社長の墓とみた。

金悟郎、ターキー？ サインが読めぬ？ の落書き帳墓は面白い。こういうのが良い。

高野山の敷地は広大で、商店や他の寺は借地料をはらっているらしい。ぶら下がる灯籠も、提灯も皆寄進額で差別される。

即ち呪を説いて日く

高野山

28日：高野山
大門・壇上伽藍・金剛峯寺
奥の院・寶物館・徳川家霊台・
女人堂等



高野

山奥の院で親鸞の墓を発見 H

高野山奥の院の入り口近くの参道に「親鸞の墓」への道標を発見し、それを見ると「見親大師善信親鸞」の石塔が立っていた。不思議に思い、後で調べてみたが、そこには「熊谷寺」という寺があり、法然、親鸞、熊谷直実の修行場とされても淨土信仰の僧が集まつた時があつたのかな? そもそも、熊谷直実とは・・・埼玉熊谷市での「熊谷寺」との関係もあ





高野山



S 紀伊見荘

何か、山村と大都市圏団地が
一緒の町？元国民宿舎？

上の階は沢山の人、その割
りに風呂は空いていた。後で
聞いたら宴会客とのこと。
朝、雨なので散策中止。
埼玉へ帰ろう。

W

そういえば我が寺も寄進金を鴨居に一
覧してあった。自分の名前を見て安心し
たものだ。またその周囲の金額をみて決
めたように記憶している。その延長上に
ある。ただ格好が良いだけであろう。ど
の時代も寄進する人はいる。

朱塗りの宝塔、しづかな石庭、船の安
全祈願なども巡る。

ニッキの情報は期待できないまま、
高野豆腐を土産にして、強欲の寺を後に
した。

最後の宿泊先は紀伊見荘、南海電鉄の
駅の近くである。どちらの方向が大阪方
面か？朝の電車がかなり混んでいる。大
阪、京都への通勤範囲のようだ。近くに
高校もあるらしい。女学生が目に付く。

羯諦、羯諦、波羅羯諦

高野山



巡礼十三日目の記録 H

高速道路無料化の是非 H

今回は、出発を十七日の土曜日、帰りを二十九日の祝日に設定し、高速道路の土日、祝日割引（原則、上限千円）を利用し、大幅に交通費を節約することが出来た。高速道路の無料化には賛否両論があるが、都合の好い話であるが、今回のような渋滞の度合いであれば良しとするか・・・自分勝手な話である。

旅の楽しみ H

遍路の旅で、不謹慎な話とは思うが、なんと言つても旅の楽しみの一つは、その土地の食べ物に出会うことである。美しい風景は写真に残すことが出来るが、出会った食べ物の味は、そうはいかない。四方を海で囲まれた四国の旅では、通称「魚料理」はどこに行つても期待できそうである。確かに、鳴門、徳島、室戸などで「魚料理」を食したが、どれも新鮮で美味しいものであった。しかしながら、旅を振り返ったとき、思い出として残してくれた「魚料理」にはめぐり合えることがなかつた。後日、今治のスナックで客の一人が「地元の魚（雑魚）を・・・高級魚は全國どこでも食べられる・・・」と話していたのが印

象に残った。

そのなかで、印象に残った味を幾つか挙げるとすると、高知市内の屋台村での「ジャコ天」、松山道後温泉商店街での砥部焼きの器で味わった「コーヒー」、今治市内のやきとり屋で味わった「皮焼き」、その店の名前は思い出せないが開店すると同時にあつという間に満員になるほどの盛況であった。

忘れてはならないのが、観音寺市内で、白川ご夫妻からお接待を受けた「讚岐うどん」である。同行した笠井氏から日頃話に出る本場の「讚岐うどん」とはこの味を指すのであろう。

なお、四国入りを目前とした淡路島サービスエリアで渡辺氏が買い求めた「明石焼き」、これも小生にとっては、忘れられない味の一つである。

このように見てみると出に残る“味”とは、食材そのものの味は勿論、食した場所の雰囲気、同席した人々との会話などの要素（5W1H）が調味料の一つとして加わり、食材の美味しさをいつそう引き立て、それが忘れがたい“味”に変化していくのであろう。

W 帰ってその後

写真集のまとめ、大変だったろうに。畠中さんはすばやい。

畠中さん曰く。自分たち以外に、写真に興味を示してくれない。コメントがほしい。さすれば？。

CD 写真集はデータ量多く聞くのに時間がかかると笠井さんの弁。

頑張って、本にしようか。せっかく製本ジグを作ったし、あわよくば電子出版が出来るかも。もともと無料の電子出版は写真集用だ。

アナログ写真は金がかかる。15 本もフィルムを使った。その割に良い写真が少ない。目もガチャ目だから仕方がないが。フラッシュもすでに無い。補充も効かない。仕方ない。このカメラで雰囲気を撮りたいからだが、誰もこんな重いカメラは持っていない。

写真集にするにはアナログ故にデータにし直さねばならない。おまけに日付がつかず、写真を見ても思い出さない。思い出すほど強烈な印象が少ない（おまえの覚えが悪いんだよ）。

みなさんデジカメである。

この巡礼で 2Kg 太った。たいして歩かなかつたのだ。平均毎日 1 万歩か。でも食事の豪華さのほうがエネルギー大なのだ。

波羅僧羯諦

W

おいしかったなー

1. なまの海苔茶漬け
2. すだち酢 勝浦郡勝浦町 中野農園
徳島県だよー
3. みかん。いろいろあるのだ、種類が。
4. 茶器のコーヒー 道後温泉の繁華街
5. うどんの食べ比べ

みかんの種類の多いのにびっくり、
ミカンは品種改良しやすいのか。
うまいのだから結構だが、
酢だちも確かに美味しいんだ。
ウツボの臭さにはまいった。畠中さんのきげんを壊した。車が臭くなかったか？
一番美味しかったのはなまの海苔茶漬け。
うどんも、うまさを経験した。
うどんは今まで煮込みが主であまり
好きでなかったから考え直そう。
茶器でのむコーヒーも乙な物であったね。これは道後温泉。

菩提薩婆訥般若心経

編集後記 W

生きた証に本にまとめるのが一番だ。そこで仲間に提案をして写真集をA5本にする。当初の写真集は畠中さんが編集してある。本にするために改竄させていた。それぞれ人物主体の写真集にした。空海の写真、地蔵さんの写真もあつたが削らせていた。
（すみません）ほとんどが背中である。背中から何かをよみとれるようにしたい。山門の写真も中心である。これらは嶋崎さんが主体に撮った。本堂は観光案内書などを見たら良いので。
納経帳も御姿帳もある。だれか買ってくれないかな。
キチンと自分が並んで記帳して頂いたもので、誰かのようには、代表がまとめてもらってきたものでは無い。
価値は違わないか！ましな事はこれくらいか。

それでも笠井さんは丁寧に巡つたな！感動！

帰宅後、佐伯さんへの挨拶、白川ご夫妻への礼状と挨拶、写真の整理と会計報告と精算、思いで話と次の仲間たち、次から次へと良く気が回る。すばやい

その後に見延山、八月五日に訪問。この寺は千葉、誕生時方面を向いているとか。途中甲州、笠井さ
桃も堅い方が旨い事発見。親恩寺は？桜の時期でない
から？
さらに次は永平寺とか。期待期待！

十月二十六日には千葉に用事があり、ついでに館山へ廻る。板東三十三カ所の結願寺那古觀音、通称崖寺
りに凝つていて、同二十七日には仲間と能登、總持寺に行つた。寺巡りがあるが偶然である。

参考資料

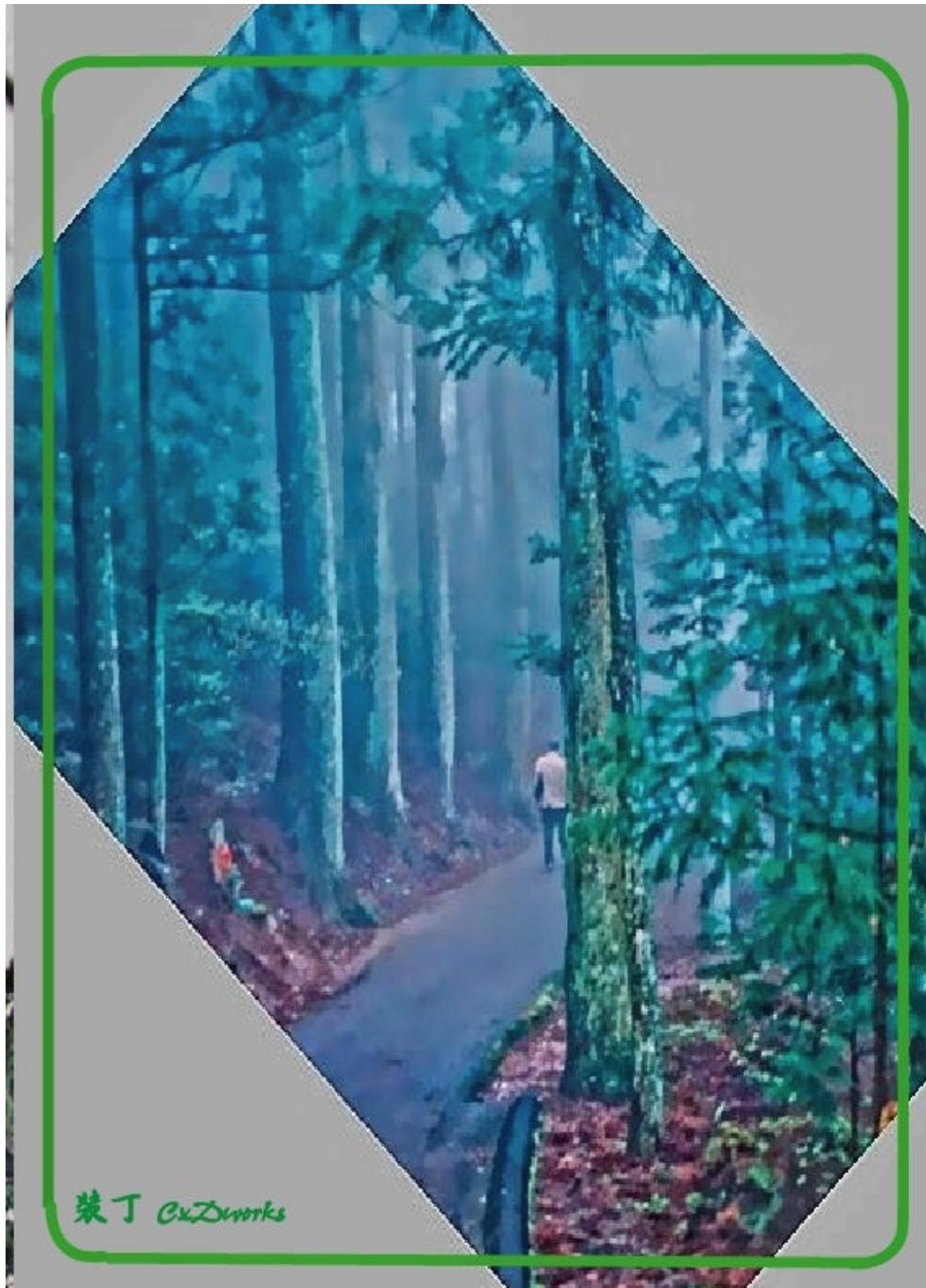
般若心經講義
四國八十八所感情巡礼
百寺巡礼
五木寛之著

角川文庫
— 468 —
高神覚昇著
車谷長吉著

文芸春秋

著者

- 笠井理平
株式会社エム・イー代表取締役
(G)テクノ・クリーンメンバー
嶋崎建三
岡谷電機産業(株) OB
(G)テクノ・クリーンメンバー
畠中俊郎
電元オートメーション(株) OB
(G)テクノ・クリーンメンバー
渡辺聰
岡谷電機産業(株) OB
(G)テクノ・クリーンメンバー
編集・製本
渡辺聰



蒙丁 CxZworks

年寄り四人八十八四国巡り 後編

<http://p.booklog.jp/book/24897>

著者 : cxdworks

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/cxdworks/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/24897>

ブクログのパブ一本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/24897>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.